

Title	現代ブータンの多元的宗教空間における仏教と屠畜に関する政治人類学的研究
Sub Title	Political anthropology on buddhism and slaughter in multi layered religious sphere of contemporary Bhutan
Author	宮本, 万里(Miyamoto, Mari)
Publisher	
Publication year	2018
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>選挙人リストから全ての宗教者を排除し、 仏教僧を政治領域から退出させたブータンの新制度の下で、仏教界は大規模な放生や灌頂儀礼の開催等をおして社会文化領域での存在感を増している。そのなかで、 ときに犠牲獣の供犠を伴う「野蛮」な土着の呪術や自然神崇拝は徐々に周縁化され、肉食や屠殺に対する忌避感は拡大しつつある。本研究では屠畜とその対極にある放生・不殺生をめぐる価値の競合過程を、畜産局、県議会、牧畜民、仏教僧や民間の放生団体、呪術者、そして屠場経営者や屠畜者といった多様なアクターからなる相互交渉のプロセスをおして描出した。</p> <p>While the new political system of Bhutan disfranchised all religions personalities and excluded them from public political sphere, Buddhist monasteries and monks are conducting grand Buddhist rituals to save the animals and increasing its influences on the society. In those situation, "savage" indigenous rituals and worships involving the sacrifice of animals have been gradually marginalized and the sense of repulsion for carnivorous eating and slaughter is expanding. This study aimed to describe how the society redefine the conventional pastoral custom of slaughter and the presence of slaughterer in the society though the dispute between the slaughter renunciation movement and increasing economic demands for slaughterhouses.</p>
Notes	研究種目：若手研究(B) 研究期間：2014～2017 課題番号：26760015 研究分野：政治人類学, 南アジア地域研究
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_26760015seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：32612

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26760015

研究課題名(和文) 現代ブータンの多元的宗教空間における仏教と屠畜に関する政治人類学的研究

研究課題名(英文) Political Anthropology on Buddhism and Slaughter in Multi Layered Religious Sphere of Contemporary Bhutan

研究代表者

宮本 万里 (MIYAMOTO, Mari)

慶應義塾大学・商学部(日吉)・講師

研究者番号：60570984

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：選挙人リストから全ての宗教者を排除し、仏教僧を政治領域から退出させたブータンの新制度の下で、仏教界は大規模な放生や灌頂儀礼の開催等をおして社会文化領域での存在感を増している。そのなかで、ときに犠牲獣の供犠を伴う「野蛮」な土着の呪術や自然神崇拜は徐々に周縁化され、肉食や屠殺に対する忌避感も拡大しつつある。本研究では屠畜とその対極にある放生・不殺生をめぐる価値の競合過程を、畜産局、県議会、牧畜民、仏教僧や民間の放生団体、呪術者、そして屠場経営者や屠畜者といった多様なアクターからなる相互交渉のプロセスをおして描出した。

研究成果の概要(英文)：While the new political system of Bhutan disfranchised all religions personalities and excluded them from public political sphere, Buddhist monasteries and monks are conducting grand Buddhist rituals to save the animals and increasing its influences on the society. In those situation, "savage" indigenous rituals and worships involving the sacrifice of animals have been gradually marginalized and the sense of repulsion for carnivorous eating and slaughter is expanding. This study aimed to describe how the society redefine the conventional pastoral custom of slaughter and the presence of slaughterer in the society though the dispute between the slaughter renunciation movement and increasing economic demands for slaughterhouses.

研究分野：政治人類学、南アジア地域研究

キーワード：屠場 仏教復興 放生実践 肉食 デモクラシー ブータン

1. 研究開始当初の背景

仏教王国ブータンは2007年を契機に民主立憲君主制を選択し、普通選挙と複数政党制を掲げたより民主的な国家を目指して新たな歩みを始めた。この民主化政策は政治の世俗化を一つの柱とし、その中ですべての宗教者が選挙人リストから排除され、従来国会に一定の議席を留保されていた仏教界は公の政治領域から排除されることとなった。しかし、仏教界は宗教領域での活動に専心することで、社会文化領域において一層大きな影響力を持ちつつある。仏教界の活動の拡大・活発化は、一方で仏教徒であることをブータン国民の独自性の一つと定義する国家の文化戦略を支えていると言える。しかし他方では、各地で実践されてきた多様な呪術信仰や自然神崇拜などの宗教実践を徐々に周縁化し、豊かで多元的・共存的なブータンの宗教空間を一元化する動きを生み出している。特に僧侶たちが掲げる不殺生戒の厳格化は、屠畜に関わる生業や肉食を伴う祭祀のありようにも変化を促しつつあった。

2. 研究の目的

本研究では、民主化期ブータンにおける仏教界や仏教僧の位置づけとその変容を、他の宗教実践の広がりを見つめ、その上で、仏教界から常に問題視されてきた屠畜の習慣と屠畜者の位置づけをめぐり、いかなる価値の競合過程が生起しているのかを、畜産局と牧畜民、移民、仏教僧やその他の宗教者、地方議会や村落会議など、多様なアクターによる相互交渉のプロセスをとらえて描出し、新たな価値体系が構築される契機とその動態を多元的に捉えようとするものである。

3. 研究の方法

本研究は、資料調査と現地でのフィールドワークによる聞き取り調査によって進めた。資料に関しては、ブータン政府の行政資料、僧院等の文書資料、クエンセル等の新聞記事を中心に収集と分析を行った。また、フィールドワークでは、牧畜村での個別世帯調査のほか、農業省の諸機関、各地の村落会議、僧侶や民間の放生団体を対象とした聞き取り調査とその分析を行った。

牧畜村での飼育家畜が標高により異なるヒマラヤ地域の特徴を踏まえ、調査対象村落は南北地域間の垂直的な差異及び東西地域間の水平的な差異の双方の比較を念頭に置きながら抽出した。北部山岳地域では西部の八県及びティンブー県から各1村、中部ではブムタン県とモンガル県から各1村、東部ではタンガン県のメラ・サクテン各郡から1村、そして南部ではトンサ県南部、チラン県、サルパン県の数村を抽出し、現代の牧畜業と屠畜実践についての聞き取りを行った。この際、合わせて各村の宗教実践の在りようを、年次儀礼での聞き取りや病床時の治療祈禱への参与観察によって明らかにしようと試みた。

さらに、近年顕著な仏教実践の一つである放生(ほうじょう)に注目し、新聞記事等からの動向調査とともに、実践を主導する諸団体や放生によって放たれた家畜の受け入れ先村落での聞き取り及び実態調査を行った。

放生、つまり捕らえられた生き物を解き放ち、命を救うという仏教実践は、生き物の命を奪う屠畜行為と表裏の関係にある。そこで、国内の精肉市場、農業省畜産局の食品管理機関、関連屠場での観察および聞き取り調査を実施した。

4. 研究成果

本研究では、政治領域の世俗化を目指した政府の諸政策が社会文化領域における宗教の活性化を導いているとする自身の仮説を検証する手掛かりとして、仏教的な放生実践と、その裏面にある屠畜者の存在に注目し、屠畜と放生という二つの事象の社会における位置づけとその変容を検討した。

放生に関する聞き取り調査では、2002年に僧侶が中心となって結成された放生団体とは別に、2010年代には民間の動物放生協会も幾つか結成されていること、それらの団体が市民からの寄付金の募集、家畜の売買情報の取得、屠畜仲介業者からの家畜の買取りとそれに続く放生を実施していることが明らかとなった。また、これらの買取った家畜をトラックで輸送し、遠方の山地に放つ過程では、その地域の牧畜民の家畜と放生家畜との間に資源をめぐるコンフリクトが生じ得ることが、聞き取りから明らかになった。そこから、政府の森林保護政策が、無主の牛を放つという放生行為といかに妥協し得るのかという別の課題が明らかになった。

放生実践の広がりや屠畜に対する忌避感を高めたが、それは東部高地の牧畜民やチベット系住民など村落地域の慣習的な屠畜者たちを一層スティグマタイズし、また、豚などの供犠を伴う宗教実践をさらに周縁化していった。2015年には、畜産局が主導した大規模屠畜場の建設計画が、中央僧院の嘆願書とそれに触発されたSNS上の議論の拡散の結果、廃止に追い込まれている。

SNSなどのバーチャルな言論空間においては、屠畜建設の是非をめぐる議論が肉食への懐疑や菜食主義、動物愛護・福祉の潮流と結びつけて語られるなど、宗教が政治経済か、というドメスティックな二項対立の枠を超えた議論に結びついている点も指摘できる。

また、仏教組織の発展に関しては、ドリンやペリンとして知られる各地の地域的な仏教宗派が、よりグローバルなネットワークを求めて組織化・僧院化するという現象がみられ、官民を問わない仏教の制度化現象が確認できた。うち、政府系僧院による出家僧の地方派遣は、地域社会における寺をとらえた相互扶助のシステムや、ボン教その他の宗教儀礼の正統性を揺るがせている。

このように、本科研の調査をとらえて、地

域社会に根付く村寺や宗教者が、民主化後のブータン社会においてグローバルな仏教復興と結びつきながら再構築され、制度化していくプロセスを確認できた。また、放生実践の拡大に関しては、チベットその他の地域での事例も報告され始めており、改めて世界規模での仏教復興と動物愛護の流れの中で捉え直していく必要もあるだろう。

また、仏教教義に基づく放生実践が民間団体を中心に展開していく動きと、そこから派生した屠畜忌避が、仏教界や市場、牧畜社会を巻き込んで多角的な展開をみせていることが明らかとなった。特に屠畜規制は国内における肉の流通の偏りを引き起こし、牧畜民やネパール系およびチベット系住民の慣習を周縁化した。それは同時に、それら高地や国境地帯に暮らすマイノリティーの人々が肉畜や屠場経営という経済的資源や機会を独占する契機にもなりうることを示唆している。また、インド国境を跨いだ牛の移動制限と瀬戸際における放生という動きと、肉市場におけるインド産の牛肉に対する需要の高まりという、相反する動きに関しては、近年のインド政府における聖牛保護との関連も含めて調査対象を拡大する必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

Mari Miyamoto, National Road Construction and a New Labour Requisition in Contemporary Bhutan, The Hiyoshi Review of Social Sciences, 査読無, No. 27, 2017, 9-32

宮本 万里、現代ブータンの民主化プロジェクト「政治的なもの」からの距離をめぐって、現代インド研究、査読有、5巻、2015、149-165

宮本 万里、現代ブータンにおける屠畜と仏教 殺生戒・肉食・放生からみる「屠畜人」の現在について、ヒマラヤ学誌、査読有、15巻、2014、71-81

[学会発表](計 13 件)

宮本 万里、現代ブータンにみる高地民と牧畜民：屠畜と移動をめぐる集団の境界づけとその動態、生態人類学会、2018年3月24日、ユインチホテル、沖縄県南城市

Mari Miyamoto, Religion and slaughter in Bhutan and Northeast India: Increasing rituals and cattle on the borders, Locating Northeast India Association, 9th-12th Jan 2018, Tezpur University, India

Mari Miyamoto, The borders in the Himalayas, Between Asias: inter-regional spaces (Invited presenter), 16th Dec 2017, Kyushu University, Fukuoka

宮本 万里、現代ブータンの仏教からみる国家と社会、2017年度MINDAS合同研究会(招待講演) 2017年9月2日、国立民族学博物館、吹田市

宮本 万里、民主化期ブータンにおける仏教復興と牛の屠り：牧畜社会の放生実践をめぐって、第50回南アジア研究集会(招待講演) 2017年7月29日、柏屋旅館、愛知県知多郡

宮本 万里、南アジア地域における宗教と肉食：国境を越える牛の屠り、北海道大学スラブ研究センターUBRJセミナー(招待講演) 2016年10月21日、北海道大学スラブ研究センター、北海道札幌市

宮本 万里、南アジアの牧畜社会における屠畜と宗教とめぐるポリティカル・エコロジー、牧畜社会におけるエスニシティとエコロジーの相関研究会、2016年8月7日、熊本大学文学部、熊本県熊本市

Mari Miyamoto, State, Religion and Conservation: Re-Buddhistization and stigmatized slaughter in pastoral societies in the Himalaya, IUAES Inter Congress, 4th-9th May 2016, Dubrovnik, Croatia

Mari Miyamoto, Social transition and reconstruction of religious sphere: "Democratization project" in the Himalayas, Development Studies Association Conference 2015, 15th Sep 2015, University of Bath, UK

Mari Miyamoto, Reconstructing Religious Sphere: Religion and Democracy in re-Buddhistizing Societies in the Himalayas, XXI International Association for the History of Religions World Congress, 27th Aug 2015, Erfurt, Germany

Mari Miyamoto, Who will be a 'slaughter' in the re-Buddhistizing society in the Himalayas, 23rd European Conference on South Asian Studies, 23rd July 2014, University of Zurich, Switzerland

Miyamoto, Mari, Spiritual Use of a Plant in Bhutan: Tsoe / Manjistha / Rubia, 14th Congress of the International Society of Ethnobiology, 1st-7th June 2014, UWICE, Bhutan

Mari Miyamoto, Slaughter and Buddhism in Contemporary Bhutan, British Association for South Asian Studies 2014 Annual Conference, 2nd April 2014, Royal Holloway, UK

〔図書〕(計 5 件)

名和 克己、石井 溥、宮本 万里 他、三元社、体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相：言説政治・社会実践・生活世界、2017、525-554

Johannes Dragsbaek, Michael Hutt, Mari Miyamoto et al., Springer International Publishing, Development Challenges in Bhutan - Perspectives on Inequality and Gross National Happiness, 2017, 95-113

Haruka Yanagisawa, Mari Miyamoto et al., National University of Singapore, National Resources Management in Asia: Commons, NYS Press, 2015, 205-227

三尾 稔、杉本 良男、宮本 万里 他、東京大学出版会、現代インド6 還流する文化と宗教、2015、242-245

宮本 万里 他、日本地域社会研究所、現代文明の危機と克服 地域・地球的課題へのアプローチ、2014、107-130

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮本 万里 (MIYAMOTO, Mari)
慶應義塾大学・商学部(日吉)・専任講師
研究者番号：60570984

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：

(4) 研究協力

なし ()